

地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会

COSPAR 小委員会（第 26 期・第 3 回）

議事要旨

・開催日時

令和 8 年 4 月 28 日（水）16：00～18：00

・開催場所

オンライン会議

・出席者：藤本 正樹、中村 卓司、矢野 創、薮田 ひかる、佐々木晶、山岸 明彦、新井康平、大塚 雄一、北宅 善昭、黒田 剛史、高橋 昭久、福家 英之、三好 由純

・欠席者：佐藤 薫、常田 佐久、山田 亨、笠井 康子、齋藤 義文、鈴木 庸平、村松 加奈子、和田 智之

（敬称略、全員ビデオ会議参加）

・議事概要

（１）出欠・定足数確認

・委員数 21 名中出席者 13 名で、定足数に達したことを確認した。

（２）委員長挨拶

・本日はシンポジウム提案が一番大きな話題だと思うので、よろしくご審議頂きたい。

（３）COSPAR 理事会、科学アドバイザリー委員会、プログラム委員会報告

・標記会議が 3 月にオランダ・ライデンにて連続開催された。米国のイラン攻撃直後であり、対面参加者の大半は欧州からだった。大型望遠鏡計画や月・火星有人探査のように、国際協力と競争の両輪で進む分野の将来計画の予見性が低くなってきたことに、懸念と困惑が表明された。同時に、こうした時代にこそ、COSPAR の役割強化が求められると会長の認識が語られた。

・COSPAR 独自の宇宙探査ロードマップの改訂作業の中間報告が行われた。

・2026 年 8 月の理事選挙について、当委員会から推薦した矢野委員を含む候補者名簿が確認された。

・プログラム会議では科学総会の全学術プログラムが順調に編成された。またシンポジウムのテーマ候補も検討され、2027 年は宇宙生命科学、2029 年は小惑星アポフィス地球接近に関する科学が提案された。

(4) 2029 年 COSPAR シンポジウム日本誘致提案 (審議)

- ・ 3 月プログラム委員会では、2029 年 4 月に地球に最接近する小惑星アポフィスの科学観測成果を一堂に介する国際シンポジウムの開催が提案された。
- ・ これを受けて検討を進めた結果、COSPAR と日本学術会議の共同主催を目指して、2029 年秋に神奈川県横浜市で同シンポジウムを開催する日本誘致案が提案された。
- ・ 議論と質疑応答の結果、まず日本誘致を決議し、誘致に成功した暁には、日本学術会議との共同主催を目指すと共に、仮に共同主催に採択されない場合でも日本開催に賛同する旨の提案が行われた。出席者の過半数の賛意を得て、本提案は決議された。

(5) 第 27 期への引継ぎに向けて

- ・ 今秋の第 27 期発足に向け、8 月 23 日までに次期委員名簿を上位委員会へ提出する。
- ・ 次期委員の構成は、COSPAR の現役員である今期委員は基本的に継続して頂き、日本学術会議の 8 月臨時総会で選出される次期会員・連携会員も考慮する方針とする。まず現委員にオンラインで意向調査を行う。その後、次期委員会設置世話人の選定を経て、次期委員長・幹事団・委員の名簿案を作成し、委員会設置提案書を事務局へ提出する。
- ・ COSPAR 総会で新たに役員に選ばれた日本人研究者の方々については、第 27 期第 1 回会議にて、定員数に収まる範囲で追加する決議をとる方針とした。

(6) 2025 年シンポジウム開催報告

- ・ 昨年 11 月にキプロスで開催された COSPAR シンポジウムの活動報告が行われた。300 人弱が参加し、宇宙教育とキャパシティビルディングに焦点を当てた構成であった。JAXA が唯一のゴールドスポンサーであり、ISAS 国際調整主幹が円卓会議に参加したり、キプロス政府と日本宇宙企業の契約調印式が開かれるなど、日本のプレゼンスが強かった。

(7) 各科学委員会／パネル等の活動報告

- ・ 各委員より自身が担当する科学委員会・パネル等の活動報告が行われた。

(8) その他

- ・ はやぶさ 2 とオシリスレックスチームが「国際協力メダル」候補として推薦され、審査中であることが報告された。Award Committee の新井委員より、今後も日本人の推薦がさらに増えるとの期待が述べられた。

(以上)